

丹沢とは思えぬ、ナメが連続する癒し系

丹沢 世附川 沖ビリ沢・縦ノ木沢

東京方面からのアクセスがあまりよくない丹沢・世附川だが、その中でも特に不便だと思う。しかし丹沢ファンには一見の価値あり。

4月24日（日）：小雨

道志みちにある山伏峠のトンネル手前に駐車し、トンネルを歩いて抜けた。旧道の脇の登山口から東海自然歩道水ノ木分岐まで30分ほど登る。途中、右手に巻き道が二つ出てくるがそのまま直登しても上部で合流する。水ノ木分岐には文字のかすれた道標とベンチがあり、ここから南向きの尾根に入った。西丸手前の笹藪を少し抜けたところで、沖ビリ沢に向け下降を開始する。足元は湿った黒い土で傾斜もそれほど急ではなく、難なく沖ビリ沢に降りられた。

降りるとすぐにナメ床であり、ぬめりもなく快適に下降できる。現在地の同定の際、水量は尾根の面積に比例することが多いということを知った。どこまで続くんだろう？と思うほどずっとナメが連続していて水も澄んでいる。時折出てくる小さな釜にも魚影が見えた。少し進むと5mほどのナメ滝が現れ、ここは左岸の残置トラロープを使って問題なく下降できた。左岸に水ノ木林道が現れるので、そこを15分ほど下ると縦ノ木橋に到着する。縦ノ木沢は、この橋の上から見ただけでも奇麗なナメで期待が高まる。上流に向かって橋の右岸側から入渓し、4mほどのナメ滝をこえればらくはゴーロ歩きとなった。両側に堰堤のある二俣では今回は右に進む。ここを左に入ると西沢という別の沢となる。

この後またゴーロ歩きとなるが、枝沢で落ちてくる滝もなかなか美しい。標高900m位で短いゴルジュとなり、9m二段CS滝が現れる。中村さんが水流をもともせずCSを突破し、ロープを出してくれた。後続はCS右側のトイ状ミニルンゼを登ったが、少々ぬめりがあって緊張した。

ミニ両門の滝は左へ進む。フリーで越えられ楽しい。ガスってきて辺りが幻想的になった。水は伏流したり再度現れたりしながら細くなり、立ったルンゼ状の詰めとなった。剥がれる岩も少々あるが登れないほどではない。最後は少し笹藪を漕いで東海自然歩道に出た。計画通り、油沢ノ頭の東側のコル付近だった。

あとは稜線歩きなので気は楽になったが、気温が5℃ほどでシャワークライムで濡れた身体が冷える。小雨も降っており沢の中にいるときよりも寒く感じた。この後、登山道は小ピークが連続しアップダウンがこたえた。季節を変えてまた訪れたい美渓だった。

【行程】

4/24

山伏峠登山口 (7:50) ～ 水ノ木分岐 (8:20) ～ 沖ビリ沢 (8:35) ～ 水ノ木林道 (9:55) ～ 縦ノ木橋 (10:10) ～ 縦ノ木沢遡行開始 (10:20) ～ 西沢出合 (10:38) ～ ゴルジュ (11:25) ～ 詰め開始 (12:50) ～ 東海自然歩道稜線 (13:17) ～ 山伏峠登山口 (14:45)

【日程】

2016年4月24日（日）

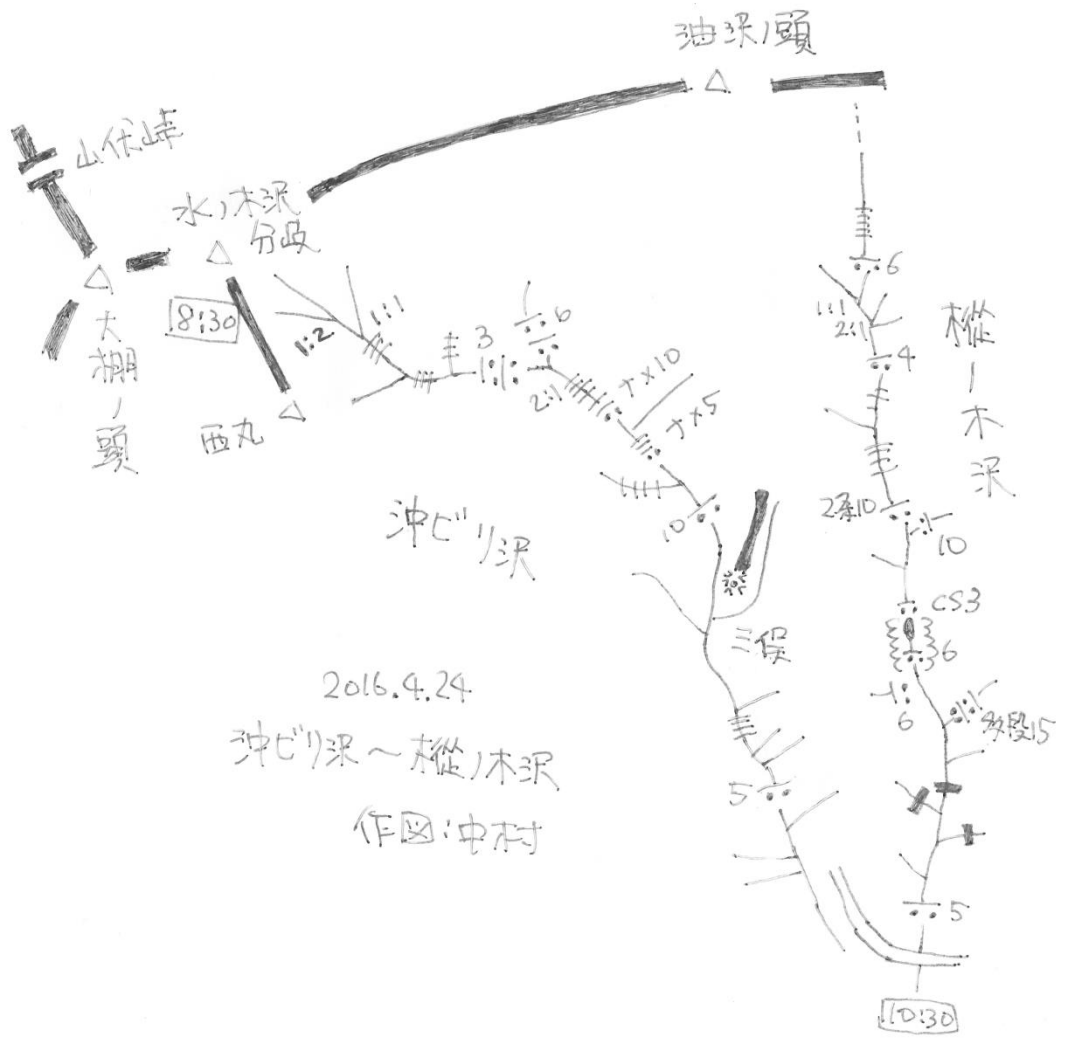
【メンバー】

中村（L）、大濱、田中

【グレード】 1級上

【地形図】 御正体山

【記】 田中



9m 二段 CS 滝



ミニ両門の滝